

長尾先生御机下

卒爾ながら、一筆啓上致します。

患者 クラシエント 様 さん から、平成26年7月1日付で、

「お灸」の往診・依頼状を受けました。(添付資料)

い、祖母を偏愛するに、
可能性が〇ではな、でしょ。その時、水戸黄門の
印籠のよ、提示し、灸をするため、「通行手形です。

平成24年12月末の仕事納めを以て、[田]「はりきゅう」の
仕事 ヤ を止めておりました。平成25年3月

特養老人ホーム

の自宅マンハッタンを引きお、

すべての患者さんを、他の鍼灸師の先生方に引き継ぎ、
佛道修行メインの生活に入りました。自己がこれまで
己とみ佛のみを、みつかる小乗的な生活を、自己に許した
のです。ところが、

ごとに紹介した女性鍼灸師の

先生が、私のような昔からの手ひねりのお灸をしてく
れないと。昨年の12月末で、やんが断つてから
もう半年程お灸をしてあげず、体調がすぐれないと西郷

でお聴きし私は熟考の末再びやくの
お父の往診を受けることにしました。吉野町の
最も辺びない奥と言われる 500m地図の庵
から、週一回、お父の往診に伺つて以致しました。
気分的には未だ小乗的で生きておりますので故郷
幽霊のよくな不思議な気分もしてあります。

本格的な退院は平成27年春、「社会福祉士」国家資
格取得後と、考えてあります。(資料添付・社会
福祉のへきる精神の小説のコピー。五十の志の記)
六十年夏、連れ添われた 二様七ヶ後、

悲嘆にくれる「やんが憔悴し、一緒にうてしまわれるの
ではないか」と私は危惧して、この死亡後手続を
を含め、約丸一年、私ども懸命に「やんをあ支え

したつもりです。結果、すり切れました。人格が破綻
するのではなかると、ザリギリのところだと直観し

佛道修行に由うの鬼の癌やしを始めたのです。

それ故、もう(ヤン)とお会いするのも無からつと
思つておりましたので、此の度の施灸往診の再開は、
私はとりまして、熟慮の末です。

しかし、私は鍼灸師でした。「患者さんのお辛せ」
「ヤンが、冬で活氣ある生活をとらもどせるの
であれば、何より、患者さん本人の依頼があれば」
行こうと考え、依頼状の郵送を、一々、から
ヤンに手交しました。

97才と10カ月、リウマチで、ペンが執りにくがうつ、
「依頼状」は届いた。稀有なことと思われます。
ボケちゃいない。素晴らしいと思われます。

さんの生命力の強さ、モノゴトへの対応力、
人としてのたじろみの徳。私は、片道85キロ 所要時間
往復4時間 20分が苦ではありません。

それでも、往診代は請求します。

自由治療代 ¥6,000 出張代 ¥10,000 しめて「回」
¥16,000 や。この料金を

(四)

No.

Date

さんは了解して下さりました。

クライエントの主治医・長尾先生は、在宅回復療
やんを、多勢 診て来られた時の通りスムーズに、
やんあるお医者様と詳 察を申し上げます。

私は、「
やんにこれまで以上のお医者はおられ
ない」と喜んでおりまわ。

やんにも、「困ったこと、辛いことを、ありのまま、

お伝えし、力になれて貰えよう」とお願いして、まわ。

やんは、長尾先生に対して、
ちょうど、まさか、まだに、裁あつてあられる気が
致します。これは、やんの奥つかしさでありますか、

「主治医のお医者様なのだから、困っているから、
辛いことしか言ひうかが知らせし、専門家の
大所高所に立った治療・助言を受けられるの
が、患者さん本人の幸せにつながるのだから、
やんに話ました。

因みに、私は國が丸いため、日浪の夫、やんしか波がうな
かって兵庫医大に進みましたるも、やんしかしても、
適応できず、足が^ケ三年在籍するも、年次で、皿の母^{モカ}退^{タク}し、
鍼灸師として、今田^{ヒロタ}です。

昭和2年生までは、母が二歳没のやん父も、東京医大
卒。67年上の長兄も東京医大卒です。

長尾先生も、東京医大卒と著書で知りました。
喜しければ酒、悲しければ酒、下街の街医者、たゞ父
が、僕に、東医の校歌、応援歌、東医健兒の唄を
レコードで教え入^スみ、よく唄わされました。

父の命日には、墓前で東医の校歌を唄い供養と
します。

初めての手紙が、エキセントリックになり申し訳あ
りません。

(私は施灸^{シキ}を止め、や傷は残^リません。)

施灸では、灸によつて火^{アツ}と微^ミかな火傷^{ハヤウ}を起^{ハサ}させ、

白血球を増加させ(大体、施灸直後から、その人の基準
値の倍近く、白血球数が増加します)、血^ク液免疫力を

高めます。父法は、白眼球の持つ免疫力を活かして治療法と想えます。鍼灸が最も効果的で、血分を被覆する若にして、11回の方法（地脚法）。

間接法のみ。退行型（筋膜炎）で谷をしてむら、腰田部、腰筋膜に走る筋膜を複数箇所の筋膜の筋膜を剥離する。腰筋膜を剥離する際、腰筋膜から、腰人、卒論筋の筋膜を剥離しました。そこは誤りで、お父さんは免疫力を高める産からの生理的機序がございました。

江戸時代末期、但波の五代前の祖先。

福井藩主・織田信長の三男である信秀が、大坂町で医療所を開設し、父の祖父母、父の祖父母、父の父の父の父の父。

戦後大阪の鍼灸界を在野で支えに日本中の一人。

幼稚園、学校、家庭、社会、

集会、講演、著書など多方面で活動を行なって来ました。

鍼灸の技術を学んだ後、伝授された、「通経と五色化」が、西洋医学の基礎となる。

患者の苦せを全般に

久々の往診を致す所存です。

「抜苦手薬」補社医療の現場アーチー
のようどころは、これに尽きると信じます。

紙面に説法、色々、生真面目上げました
こと、どうぞお許しください。

以上、報告まで。

平成26年8月26日(火) 沢井